



関西エアポートグループは、プラスチック・スマートな活動を推進します ～Plastic Free Airportをめざした取り組み～

関西エアポートグループでは、環境にやさしいスマートエアポート「Plastic Free Airport」の実現をめざして、関西国際空港、大阪国際空港、神戸空港でプラスチック・スマートな活動に積極的に取り組んでいます。「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」や環境省のプラスチック・スマートキャンペーンの趣旨にも賛同しており、関西エアポートグループは目標年次を2022年度に設定して3R（リデュース・リユース・リサイクル）の取り組みを推進していきます。さらに、各空港事業者で構成される「エアポート環境推進協議会」の活動を通じ、各空港全体でプラスチックごみ対策を推進していきます。



項目	環境省 目標年次	プラスチック資源循環戦略が示した 方向性（マイルストーン）	関西エアポートグループ 目標年次
リデュース	2030年	使い捨てプラスチックを25%抑制	2022年
リユース リサイクル	2030年	プラスチック製容器包装の60%を リユース・リサイクル	2022年

関西エアポートグループの取り組み

- ・ 関西エアポートグループの「環境宣言」に使い捨てプラスチック使用量の25%削減を明記
- ・ 2020年4月1日より、直営免税店舗のショッピングバック（メーカー支給分を除く）や直営ラウンジのストローをエコ素材に切り替え予定
- ・ 関西国際空港では、空港をご利用のお客様から不要なスーツケースを引き取り、検品後にリユース
- ・ 3空港へ来港されたお客様の不要な傘のリユーススペースを提供
- ・ 3空港で開催するイベントで使用する袋、コップ、スプーン・フォーク、ストロー等のプラスチック製品を廃止
- ・ 関西エアポートグループ社員で構成する環境アンバサダーの活動を通して、意識向上を図る
- ・ 2020年1月から、関西エアポートグループ従業員がペットボトルでの飲料をやめる「No！ペットボトルday」キャンペーンを実施
- ・ 3空港における環境規程の策定や環境配慮製品を優先的に購入できる仕組み作りなど調達方法の見直しを検討
- ・ 3空港におけるごみの分別方法の見直しを検討
- ・ 無料のウォーターサーバーの増設を検討（現在、3空港で24箇所）

空港全体の取り組み

- ・ 3空港の「エアポート環境推進協議会」活動を通じて、空港全体でプラスチックごみ対策を推進
- ・ 3空港の113店舗と連携して、店舗のレジ付近でレジ袋の削減を呼びかける“Say NO to plastic bag”の掲示を開始
- ・ エアポート環境推進協議会メンバーのプラスチックごみ対策等の好事例を3空港で共有
- ・ エアポート環境推進協議会メンバーに空港オリジナルデザインのエコバックやピンバッジを配布して意識向上を図る



関西エアポートグループは、これからも持続可能な社会を実現するために環境負荷低減に向けた取り組みを推進し、周辺環境と共生した空港の発展をめざしてまいります。

関西エアポート株式会社は、オリックス株式会社と VINCI Airports（ヴァンシ・エアポート）を中核とするコンソーシアムにより設立されました。関西国際空港（KIX）および大阪国際空港（ITAMI）の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016年4月1日より両空港の運営会社として事業を開始しています。

また、2018年4月1日からは関西エアポート株式会社の100%出資会社である関西エアポート神戸株式会社が、神戸空港（KOBE）の運営を神戸市から引継ぎ、事業を開始しました。

“One 関西エアポートグループ”として、空港の安全とセキュリティを最優先に、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化してまいります。また、関西3空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへの貢献につなげてまいります。

詳しくは、関西エアポートグループホームページ: www.kansai-airports.co.jp/ をご参照ください。

関西エアポート株式会社（関西国際空港および大阪国際空港の運営）

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 大阪市西区西本町一丁目4番1号（登記上）	株主	オリックス 40%、 ヴァンシ・エアポート 40%、 その他の出資者 20% ¹
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等		

関西エアポート神戸株式会社（神戸空港の運営）

本社	兵庫県神戸市中央区神戸空港1番	株主	関西エアポート株式会社 100%
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	神戸空港の運営、維持管理業務等		



オリックス株式会社について

オリックスは常に新しいビジネスを追求し、先進的な商品・サービスを提供する金融サービスグループです。

1964年にリース事業からスタートして隣接分野に進出し、現在では融資、投資、生命保険、銀行、資産運用、自動車関連、不動産、環境エネルギー関連などへ事業を広げています。また、1971年の香港進出を皮切りに世界37カ国・地域に拠点を設け、グローバルに展開しています。



世界有数の空港運営事業者であるヴァンシ・エアポートは、46空港の開発・運営を行っています。同社の空港ネットワークを構成するフランス、ポルトガル、イギリス、スウェーデン、セルビア、カンボジア、日本、アメリカ合衆国、ドミニカ共和国、コスタリカ、チリ、そしてブラジルの空港には、合計で約250社の航空会社が就航し、2018年の旅客者数は2億4,000万人にのぼります。

ヴァンシ・エアポートは総合インテグレーターとしての専門知識を駆使し、空港の開発・資金調達・建設・運営に当たっています。またその投資力、国際ネットワーク、ノウハウを生かして、空港の運営と機能を最適化し、施設拡充や新規建設事業を行っています。

2018年の連結売上高は16億ユーロ、グループ全体の売上高は36億ユーロ（関連会社含む）に達しました。

詳細は www.vinci-airports.com をご覧ください。

¹ 株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社 JTB、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、西日本電信電話株式会社、パナソニック株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱UFJ銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構